

学校関係者評価報告書（2023年度）

2024年6月11日

京都文化医療専門学校

学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、京都文化医療専門学校の
学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

2024年6月11日

校長 野口 智樹

自己点検・評価責任者 竹内 健二

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的
2. 学校関係者評価の基本方針
3. 学校関係者評価委員会 出席者
4. 学校関係者評価委員会 実施日時
5. 学校関係者評価方法

II. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標（重点取組）
2. 学校運営
3. 教育活動（重点取組）
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受入れ募集（重点取組）
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域後見
11. 国際交流

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めると共に、学校関係者評価委員会の設置により継続的な連携協力体制を確保し、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員会 出席者

区 分	氏 名	所 属
業界関係者	孝本 乃子	歯科小児歯科乃子医院 院長
業界関係者	藤本 悠実	たけち歯科 勤務（実習指導者）
卒業生	柴垣 あかね	デンタルニコニー（自営）

※敬称略

4. 学校関係者評価委員会 実施日時

実施日時：2024年6月4日（火） 14：40～16：00

場 所：京都文化医療専門学校 会議室

5. 学校関係者評価方法

2023年度の自己点検・自己評価報告書に基づき、評価項目の結果および課題、改善方策について以下の視点から評価を行った。なお各評価は4段階に区分している。

①自己点検・自己評価結果が適切かどうか

②背景や課題への認識が適切かどうか

③改善方策としての取組みが適切かどうか

（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）

※自己点検・自己評価についても同様に4段階評価となる。

II. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

高齢化の進展、医療の高度化・専門化等の環境の変化に伴い、社会から求められる歯科衛生士の資質を兼ね備えた人材の育成を行うことが大切である。時代の変化に対応した養成目的や教育目標の見直しを行い、教育現場に落とし込むためのシステムの構築が重要であるとの認識を持っている。

また、地域においては各医療機関より歯科衛生士人材の不足が強く懸念されており、歯科衛生士養成校に対して人材供給力としての期待が高まっている。本校は、地域の歯科医師会や歯科衛生士会との連携の下で、各地域における歯科衛生士の人材供給を効果的に行うことが求められている。

歯科衛生士は、すべてのライフステージに応じた歯・口腔の健康づくりの専門職として、歯科医療施設のみならず、地域の保健センター、保健所、保育所・幼稚園、学校、企業の健康管理室、そして、高齢者の居宅や介護保険施設、障害者等の社会福祉施設等、様々な施設において活躍することが期待されている。社会的なニーズを常に把握し情報を取り入れるためのシステムや体制を構築しなければならない。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

2. 学校運営

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営方針や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学園全体の方針や方向性は、各種会議体や研修等によって全教職員に周知されている。変化の激しい業界のニーズに応えるためには、教職員間のより密度と定時性の高いコミュニケーションが求められているとの認識を持っている。

現在、教職員間のコミュニケーションを図るために、グループウェアを活用し教職員のスケジュール管理やファイル共有を行い、情報の「見える化」「共有化」を図っている。またオンラインミーティングソフト「ZOOM」やマイクロソフト社の「TEAMS」等を活用し、社内会議や外部組織との打ち合わせに活用するなど、より一層業務の効率化を図っていきたい。

本校では、各学年や教科担当、教務間における連携を密にし、学生の状況把握や学校運営に係る課題や情報をスムーズに共有することで、より質の高い教育の実践を目指している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・今は京都に4校の歯科衛生士養成校があり、多様なスキルを持つ歯科衛生士を養成できる環境が出来たことは良いことだと思う。

3. 教育活動（重点取組）

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

社会からの要請との間にかい離することなく、付加価値が高く、即戦力としての人材育成が本校の責務であると認識している。歯科衛生士として臨床の場において求められる

資質を備えるために、臨床実習施設等と一層の連携を図りながら、充実した臨床実習等を行うことが求められている。

歯科衛生士の活躍の場の多様化とチーム医療の実践を目指すために必要な資質を備えた人材の育成のために必要な授業の実施と教育内容の充実を図っていくとともに、これらの教育を支えるために必要な情報等を教職員にフィードバックできる体制の構築が求められている。

また本校歯科衛生学科は、2024年度より専門実践教育訓練給付金制度の指定講座となるが、地域における歯科衛生士の人材不足が懸念されている状況を鑑み、地域の歯科医師会や歯科衛生士会と連携をしながら、社会人の学び直しやリスキリングのニーズにも応えられるような取り組みも進めていきたい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

- ・本校の学生は実習で接していて愛嬌で優っている学生が多いと感じており良い点だと思う。元気よく挨拶してくれる実習生も見受けられ、未来学園らしさが出ている。
- ・以前の実習生は技術的にも低い面が見受けられたが、最近は少しアドバイスをすれば上手くこなせる実習生も見られた。

4. 学修成果

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	2
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

退学率の低減については、継続的な取り組みが必要であると認識しており、入学前後のギャップが退学率の上昇に結び付かないよう、入学前の丁寧な説明と入学後のフォローアップが大切である。今後も継続的に退学率の低減に寄与すべく様々な取り組みを進めていきたい。

就職については、歯科衛生士の求人状況が活況であることから、就職希望者の就職状況は良好であると言える。今後は、卒業生の求人・就職ニーズについても情報を収集する仕組みを作り、歯科医療業界における歯科衛生士の求人ニーズに対応していくことが求められている。

就職指導は3年生後期に行われることから、臨床実習や国家試験対策等と時期が重なり、就職指導に必要な時間の確保が困難となる可能性がある。3年間の就職活動サポート計画を示し、学生自身の就職に対する意識を高め、早い時期から主体的に行動する意識を持たせるようにカリキュラム編成を行うことが必要である。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取り組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

- ・知識が不足している学生も多いし、そのことを自覚してほしいが、知らないことは恥ずかしいことではない。患者さんにホスピタリティーを示すことが大切だと思う。
- ・もともと京都には本校と京都歯科医療技術専門学校しかなかったので、本校の卒業生に対する風当たりも強かったが今はそれもなくなった。

5. 学生支援

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4

・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

経済的なサポートにおいて、専門実践教育訓練給付金制度は2020年度より適用校から外れたため、社会人学生の入学ニーズに応えられなくなっており、再び指定講座となるべく、引続き環境の整備に取り組む必要があったが、2024年度より歯科衛生学科が厚生労働大臣の指定講座となったため、社会人学生の経済的ニーズに合致した広報展開を行うことが可能となる。

また本校は2020年4月からは国の修学支援新制度の対象となっており、2023年度は36名の学生が給付奨学生及び授業料等減免の対象者として支援を受けた。修学支援新制度は日本学生支援機構の給付奨学金制度と学校の授業料等減免制度の2つの制度からなっており、学生や保護者にとって分かりにくい側面があるので、制度についていかに分かりやすく伝えていくのか工夫が求められる。

さらに健康管理においては、新型コロナウイルス関連での行動自粛要請、経済的困窮から精神面でのサポートを必要とする学生が増加していることから「心の相談室」を設置し臨床心理士の国家資格を有した担当者が定期的に学生等のメンタルヘルスケアに取り組んでおり、学生等への認知向上に努めてきた。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・教育訓練給付金を活用できれば、社会人学生のニーズに応えることが出来るのでとても良いと思う。

・夜間部の学生は社会人が多く、個人ごとの学力レベルが高いので授業をしていても楽しかった。全員一緒に働きたいと思えるぐらいだった。

6. 教育環境

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校では、社会の要請に応えられる歯科衛生士の育成に必要な施設と設備を充実させている。今後もより一層、教育環境を充実させることにより、教育的効果の向上につなげていきたい。また、臨床（臨地）実習施設については、歯科衛生士の活躍の場の多様化やチーム医療の実践に対応できる人材の育成に不可欠な側面であると認識し、実習施設等との情報共有、連携を一層図り、充実していくことが求められている。

また、教育環境整備の一環としてMicrosoft社のteamsを導入し、リアルタイムに双方向のやり取りが可能なので、学生と教職員間の情報共有が円滑に進むため、今後も一層活用していくことが肝要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・以前は会立校と本校との比較で話題にされることが多かったが、最近はその数が減ってきた。良い傾向だと思う。

7. 学生の受入れ募集 (重点取組)

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学納金等については、学校案内やホームページ等を通じ、受験者や保護者が分かりやすい情報提供を行うように心がけている。受験者や保護者には、奨学金や教育ローン等を含めた学納金の情報が重要となっていることから、より分かりやすい情報提供を行うように工夫する。

特に国の修学支援新制度と給付奨学金制度については、制度が複雑で分かりにくい面があるため、個別相談等の機会を捉えて、制度についての丁寧な説明を行うことにより、制度対象者が入学を検討するために必要な情報を提供することが大切である。

また、従来の来校型のオープンキャンパスや個別見学会のみならず WEB を活用したオンライン型オープンキャンパス・個別見学会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ収束する中、オンライン型オープンキャンパスのニーズは低下しつつあるが、不測の事態が生じた場合にも対応できるように備えておくことが大切だと認識している。

2024年4月より京都で4校目となる歯科衛生士養成校が設置され、教育活動が開始するが、2023年度の募集活動においては入学希望者が前年度よりも低下するなど一定の影響がみられた。2024年度の募集活動においては、入学検討者に本校の魅力を様々な視点から伝えることで、本校を選択してもらえるような取り組みが必要である。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からのご意見)

・今後ますます、他の歯科衛生士養成校との学生獲得競争が激しくなることが予想されるので、他校との差別化をしっかりと図ることが大切だと思う。

8. 財務

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制準備はできているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。しかし、学校法人を取り巻く環境の変化や会計の厳格化を背景として、学校法人の経営状態を社会に対してより正確に、分かりやすくすること、そして適切な学校経営の判断に役立つものとするのが大切であるとの認識を持っている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

9. 法令等の遵守

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・自己評価結果を公開しているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校では、専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領等の法令や基準等に基づき学校運営を行っている。また個人情報については、個人情報の保護に関する法律の趣旨や目的を鑑み、個人情報の適正かつ効果的な活用等をもって、本校を取り巻く利害関係者の安心・安全を確保することにつなげていきたいと考えている。

また近年、情報通信技術（ICT）の進展に伴い、様々な情報をデジタルデータとして収集・蓄積・管理・加工・編集し、ネットワークや記憶メディアを通じてやり取りすることが容易になっている。個人に関する情報も、インターネットやスマートフォン等を通じてやり取りされる機会が増加しており、これらを扱う本校にとっても、個人のプライバシーや個人情報の保護が重要な課題となっていることから、個人情報保護の取り組みをより強固なものとするために、学校運営の仕組みを構築し、同時に全教職員が個人情報保護に対する認識をより向上させるための教育が重要であるとの認識を持っている。

本校では、学校に設置されているパソコン端末の Web アクセスを一元管理し、証跡を追える Web プロキシのログを取得することで、Web セキュリティー対策を実施している。さらに各パソコン端末の Web アクセスを制御することで、出口対策を行い不用意に組織内部の情報が外部に晒されることがないような仕組みを構築し、個人情報の保護に必要な対策を講じている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4

②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・特筆すべきコメントはありません。

10. 社会貢献・地域貢献

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は地域医療の人材を育成する教育機関であり、社会貢献や地域貢献、ボランティア活動等の取り組みを積極的に実施すべきであると認識している。

学生のボランティア活動については、学生が積極的に参加できるように情報提供を行うとともに、側面的な支援を実施したい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

1 1. 国際交流

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

留学生の受入れを実施した場合、留学生に適切な教育環境を提供することが求められる。また、留学生が資格取得後に引き続き国内で活躍できるような環境を確保するために、様々な環境整備が必要となる。このような環境整備には本校のみならず、行政機関、業界団体、地域社会、消費者等の利害関係者による検討や制度設計等が必要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

- ・留学生に歯科衛生士の資格を取得させるのはハードルが高いが、留学生に歯科助手（デンタルアシスタント）の修了資格のようなものを発行するような形で講座運営するのもいいかもしれない。
- ・日本で歯科衛生士の資格を取得しても、外国で使えるかどうかは分からない。使える国があっても、急に国の方針で使えなくなることも考えられる。
- ・外国人を対象にした歯科治療のニーズが高いと感じている。一人が受診するとその口コミでどんどん紹介してくれることがある。

以上